

ちば里山新聞

(第21号)

編集 発行 ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
電話 0438-62-8895
題字 倉島 貴浩
(ワークホーム里山の仲間たち)

「里山に楽しみを見つける3日間」

(学生対象の里山活動体験講座)

(独立行政法人環境再生保全機構・地球環境基金助成事業)



9月11日(金)～13日(日) 2泊3日の「学生対象の里山活動体験講座」を開催しました。

応募者46名で当日参加者は41名でした。学部は社会学部・経営学部・園芸学部・総合福祉学部等多面にわたりました。開催にあたり「千葉県」「市原市」「独立行政法人環境再生保全機構・地球環境基金」「(社)千葉県緑化推進委員会」「千葉県森林組合」「千葉県自然観察指導員協議会」「千葉日赤」そして地域活動団体の「市原米沢の森を考える会」の皆様等、行政・団体・市民による多様な参加の協働で開催することが出来ました。以下に全行程を紹介します。

学生対象の里山活動体験講座全行程

1日目 (千葉駅・五井駅からバス乗車)



千葉駅を8:30出発予定。

しかし、参加者は初めての場所である人が多く集合場所が分からず、遅刻者続出!

多少の遅れではあったが、無事予定者全員集合して出発することが出来ました。

車中、実行委員長の小西さんからの説明に耳を傾ける。

1 日目 開講式



市原米沢の森・行人塚での「開講式」

注意事項にビクビクしちゃった。(後の感想より)

下草刈り 昼食



しの竹・真竹伐採



作業後古墳出現!!!

交流会 バーベキュー



火おこしから始まったわいわいバーベキュー

2 日目 杉間伐体験・農体験



チェーンソーやトラクターなど普段使うことの出来ない道具を体験できたことなど、里山活動体験に参加して本当に良かった。とてもプラスになりました。(アンケートコメント)



講義・ミーティング



講義の後、3グループに分かれての意見交換会。今回の参加動機は先生からの紹介が多かったが、学生たちは「専門分野への連携を考えたいなど」活発に意見交換を行った。

1. 千葉の里山
市原米沢の森を考える会
鶴岡 清次
2. 千葉の里山・現状と活かし方
里山センター会長
金親 博榮
3. 農林水産省の国際協力
千葉県自然観察指導員協議会
佐野 由輝

3日目 講義

Aコース（大木淳一講師）

「地質・地形について」

Bコース（谷 英男講師）

「森林整備と生物多様性」

Cコース（佐野由輝講師）

「森と人との関わり」



三日目は、清和県民の森での自然観察会でしたが3コースに分かれ、それぞれのコースで講師の方々にご講義いただき、学生たちも熱心に耳を傾けていました。その後、昼食をとり閉会式となりました。閉会式では、1面の集合写真にもありますが、修了証書を学生たちに授与し、無事大きな事故もなく、楽しい3日間を過ごし終了しました。

ちばの里山に学ぼう！ 学生による里山体験講座のすすめ

千葉県農林水産部森林課
西野文智

里山体験講座って何でしょう。次代を担う若い学生の皆さんに、ちばの里山の実態や取り組みをもっと知ってもらいたいと企画され、第2回目となった「学生対象の里山活動体験講座」も成功裡に終了しました。

里山で行う実習主体の講座と案内されていましたが、スタートからいきなり！草刈機体験があり、手ノコでの竹伐採の実習に遭遇して、皆さんも少々面食らったことでしょう。でも、気が付けば危険なチェーンソーを操って間伐を行い、トラクターの操作体験などに目を輝かせている皆さんの姿がありました。汗を流した実習の間には、地元の里山活動団体の方々から里山の歴史や里山再生への取り組みなどをお聞きし、山頂の昼食では心温まるおもてなしもいただき、時には予期せぬ場面にも直面しましたが、それら全てが大学の講義や座学では得ることのできない貴重な経験になったことと思います。

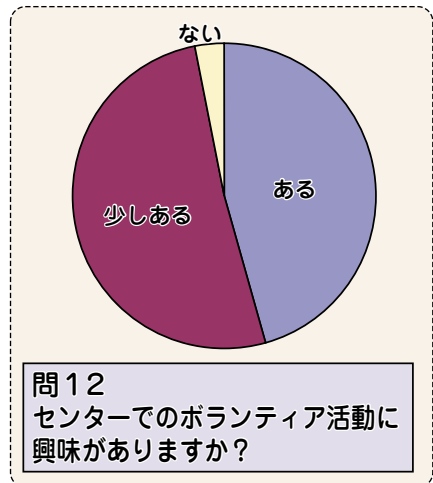
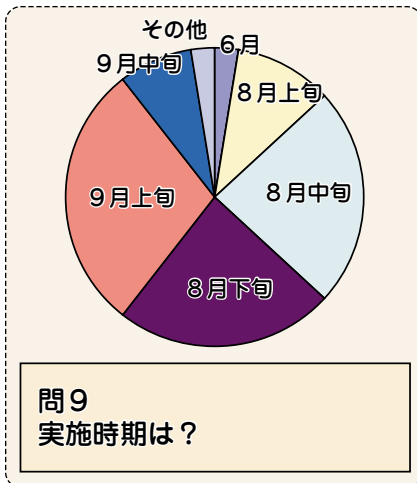
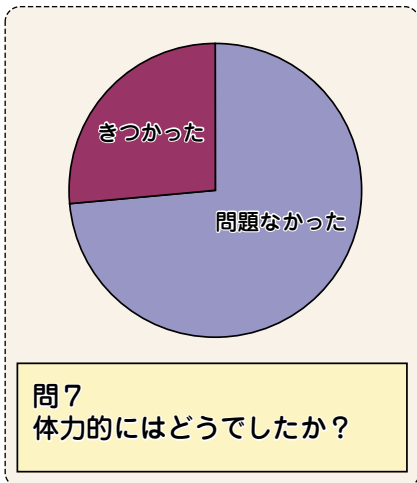
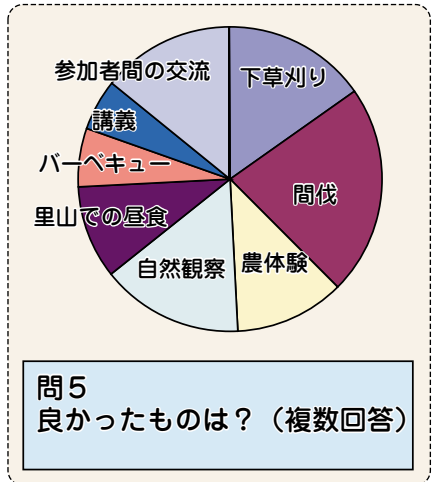
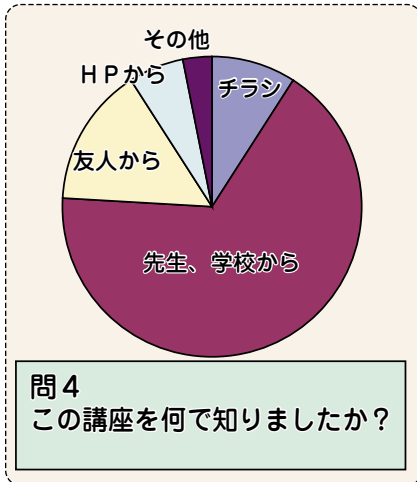
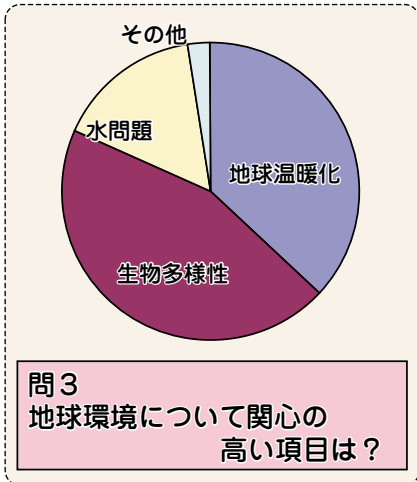
里山体験講座はプラクティカル。ここ数年、教育関係者からプラクティカルな教育という言葉をよく聞くことがあります。即戦力として社会環境の変化にも対応できる人材の育成は、いまや世界共通の課題とのことで、環境先進国ドイツの大学や高校、そして学生自身もプラクティカルな志向がとても強く、インターンシップはいまや当たり前だそうです。座学に偏重せず社会で通用する実学であり、論文やインターネットで解答を求めるのではなく答えの本質を現場から見つけ出す能力を”引き出す”ことが、プラクティカルな教育とも言われます。

「教育」という言葉は、明治時代にeducation(エデュケーション)が訳されたもので、語源はラテン語のeducere(エデュース)ですが、その意味は「個々の潜在能力を”引き出す”こと」だそうです。

里山そのものが多様であるように、里山活動体験講座を通じて”引き出された”皆さんの新しい視点や価値観などもきっと多様でしょう。この講座に参加して里山を体感したことが、里山を維持してきた農林業の意義、環境や景観が保全される仕組み、地域の文化やコミュニティとの関係など、皆さんが学んできたことを現場の視点から振り返るきっかけになったでしょうか。

新しい時代を担う多様な人材育成の場として「ちばの里山」が広く活用されて、効果的な里山活動体験講座がさらに発展していくことを期待しております。

参加学生アンケート



アンケートコメントより

- ・ 間伐体験など貴重な体験ができて、とても楽しかったです。スタッフの方々ともいろいろな話が出来て勉強になりましたし、ステキな友達や先輩方、後輩との出会いもあり、参加できたことをとても嬉しく思います。
- ・ 間伐した木を運び出す作業もやりたかったです。
- ・ 里山からの日の出が見てみたかったです。頂上付近で夜を明かすのは難しいでしょうか？
- ・ ボランティアに参加させていただきたいと思っていますので、そのときまた是非よろしく願いいたします。
- ・ いい体験がたくさん出来て、楽しかったです。里山を保全するためにいろんな人が尽力して次世代に伝えてほしいなと思いました。
- ・ 1日目にいきなり作業するのではなく、班の交流が必要だと思いました。
- ・ 間伐した木で何か作成したかったです。
- ・ 自然観察のときに少しゲームをしたかった。

あとがき

少しずつ、秋も深まり、里山の風景も色とりどりに変わっていく季節になりました。

今、運営委員会では特定非営利活動法人化に向けての会議をしております。

委員一人ひとりがこれからの「ちば里山センター」をより良いものにするため、頑張っています。

会員の皆様も里山センターにご意見やご要望等ありましたら、お知らせください。お待ちしております。(た)

